

世界中のみんなで津波について正しく理解し、

日頃から、津波対策に取り組もう!



津波避難ポーズ

このポーズは、「速やかにできるだけ高いところへ避難しましょう」というメッセージを体感して身につけてもらうために考案したものです。

植樹マン Rinnōji-Temple
 コーすけ ©2012 CO-OP 共済コーすけ
 航空自衛隊 大湊 マスコットキャラクター ガメどん
 ふじっぴー ©静岡県
 あおもり観光 マスコットキャラクター いくべえ®
 ケービー ©KAB熊本朝日放送
 西予市イメージキャラクター せい坊
 中津市公式キャラクター くらかんくん
 ムチュランファミリー ©青森県むつ市
 ガチャピン・ムック ©FUJITV KIDS
 はばタン ©兵庫県2007
 しんじょう君 ©須崎市2013#337
 ふなっしー ©ふなっしー
 きいちゃん 和歌山県
 くまモン ©2010 熊本県くまモン
 ちっちゃいおっさん ©UPRIGHT
 津波防災 ひろめ隊 2015-2016
 わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを多くのおみなさんにひろめるお手伝いをします。

11月5日は世界津波の日

2015年12月の国連総会により決定されました

日本をはじめとする世界142カ国の共同提案により、毎年11月5日が「世界津波の日」と制定され、世界中で津波対策に関する新たな取り組みが始まりました。なお、日本ではこれまでも2011年に「津波対策の推進に関する法律」により、11月5日を「津波防災の日」と定め、全国各地で津波防災訓練や意識啓発の取り組みを実施しています。

- 津波から身を守る2つの約束
- 1 家族と逃げる場所を決めておく
 - 2 自らの命を守ることに全力を尽くす

津波!? 海岸近くで揺れを感じたら、高いところへ!



2015年12月の国連総会において、

毎年11月5日が「世界津波の日」に制定。

津波について正しく理解して、津波対策を進めよう。

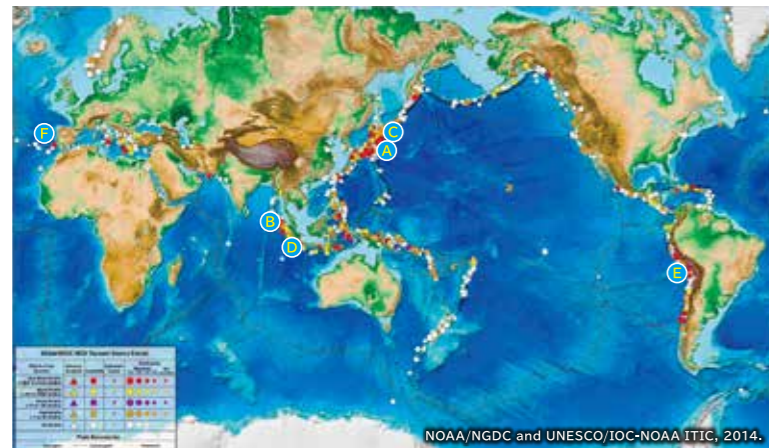
世界中で津波によってもたらされるリスクに関する人々の意識を向上し、津波対策を強化するため、日本をはじめとする世界142カ国の共同提案により、2015年12月の国連総会において、毎年11月5日が「世界津波の日」に制定され、津波対策に関する新たな取り組みが始まりました。

世界中で、これまで幾度も津波による甚大な被害に見舞われてきました。

1960年のチリ、1976年のフィリピン、1998年のパプアニューギニア、1999年のトルコ、2001年のペルー、2004年のインド洋沿岸諸国、2009年のサモアおよびトンガ沖、そして、2011年の東日本大震災など、世界各地で津波被害が発生しており、津波の脅威は多くの世界共通の課題となっています。

津波防災は世界中に広がっています。

津波発生源 紀元前1610年～2014年に発生した地震、火山噴火、地滑り、その他



1700年に降に発生した最大級の津波では、死者は15,000名を超えている。

- 2011年東日本大震災: 18,000名超の死者と行方不明者
- 1883年インドネシア・クラカタウ火山噴火: 34,000名の死者
- 2004年インド洋津波: 227,000名超の死者
- 1868年チリ地震: 25,000名の死者
- 1896年三陸沖地震: 27,000名の死者
- 1755年ポルトガル・リスボン地震: 50,000名の死者



日本では、2011年に「津波防災の日」を法定。

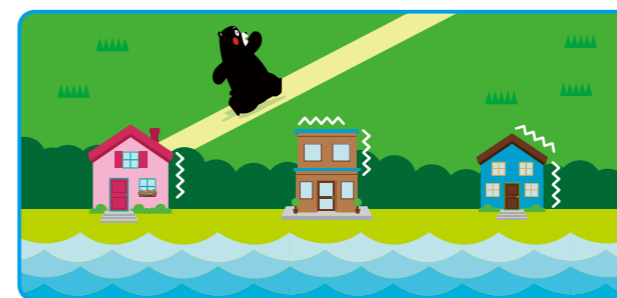
日本では、東日本大震災が発生した2011年に、津波対策について国民の理解と関心をより一層高めるために、法律で「津波防災の日」を制定し、全国各地で津波防災訓練や意識啓発の取り組みを実施しています。

11月5日は、嘉永7年(1854年)、安政南海地震(M.8.4)による大津波が紀伊半島を襲った日です。その際、和歌山県のある村の郷土が、収穫したばかりの穂を積み上げた「稲むら」に火を放って、暗闇の中で逃げ遅れた村人を高台に導き多くの命を救ったという出来事がありました。この「稲むらの火」の逸話に因んで「津波防災の日」として11月5日が選ばれました。

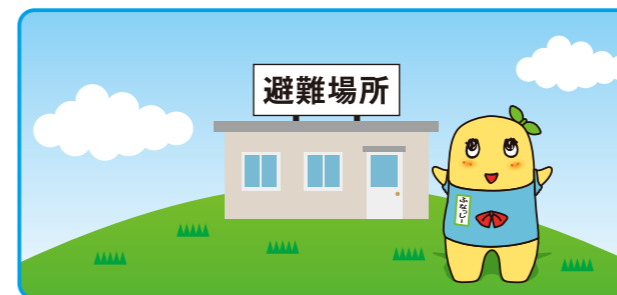


津波から身を守る心得

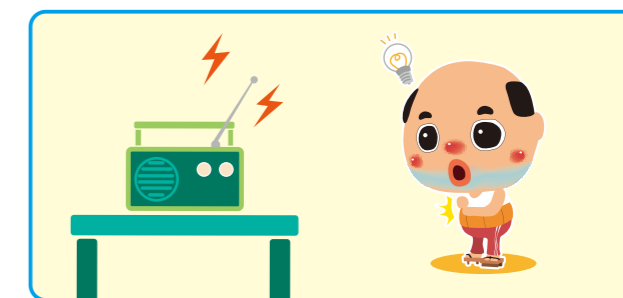
1 海岸近くで大きな揺れを感じたら、直ちに、高いところへ避難しましょう。



2 津波は繰り返し襲ってくるので、安全が確認されるまで避難場所に留まりましょう。



3 地震が起きたら、ラジオやテレビなどを通じて行政等が発表する津波情報を確認しましょう。



4 日頃から、津波避難場所や避難ルートを確認し、避難訓練をしておきましょう。

